

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0821
 住 所 川崎市川崎区殿町3丁目25番12号
 氏 名 公益財団法人 実験動物中央研究所
 代表理事 野 村 龍 太

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	公益財団法人 実験動物中央研究所		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区殿町3丁目25番12号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	上記以外の事業者(任意提出事業者)	
主たる事業 の業種	大分類	A	農業, 林業
	中分類	01	農業
主たる事業 の内容	畜産類似業(実験動物飼育業)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	1,971 k l
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2020 年度 ~ 2022 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

1. 組織

- ・ エネルギー管理推進会議の随時開催（メーリングリストの活用）
- ・ 自主基準を確認、評価、改善指示
- ・ 環境問題の教育活動

2. 目標を定めた取り組み

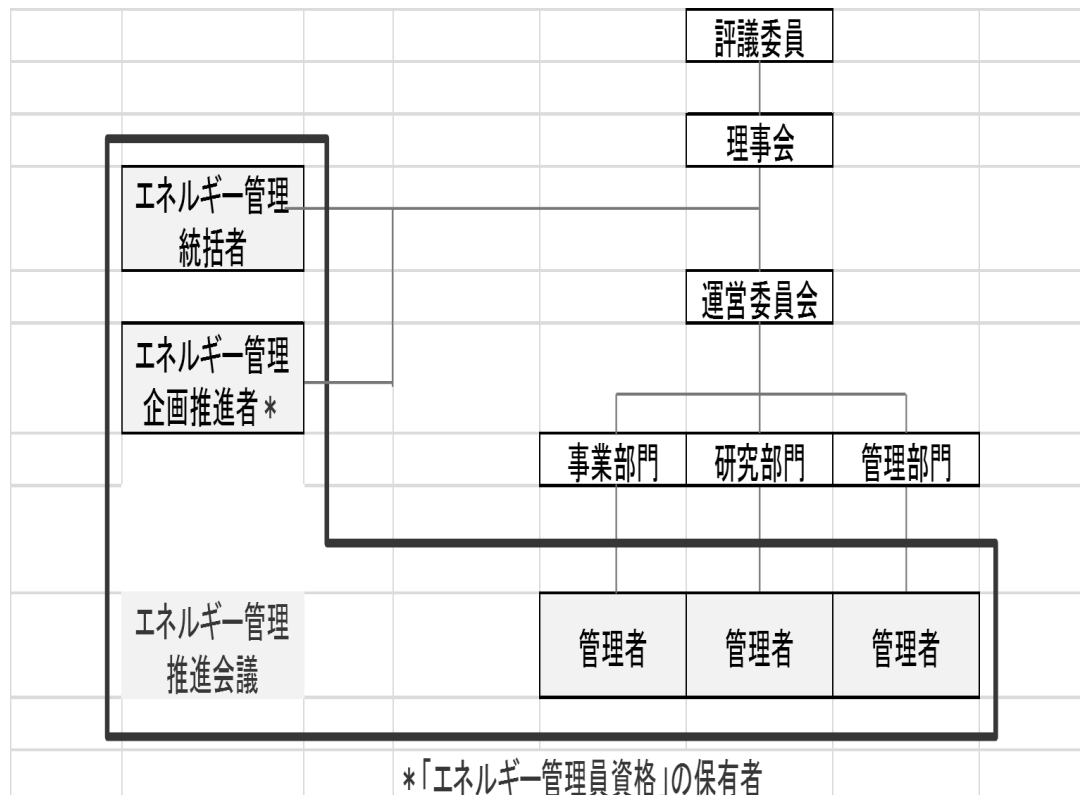
- ・ 活動の合理化
- ・ 施設、作業環境の省資源化、省エネルギー化
- ・ 職員の意識向上による省エネルギー化の促進

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（P D C Aサイクル）を行うための方針

1. 推進会議が現場や業者の協力を得て改善の余地について調べる
2. 業務、予算に無理のない改善計画を立て、実行する 不可能なら別の改善点を探す（1.に戻る）
3. 気象や市場等外的要因の影響を踏まえて改善の結果を解析し、会議が評価する
4. 結果が向上した場合、その状況を続け他に新たな改善点を探す（1.に戻る）
向上しない場合異なる改善方法を検討する（2.に戻る）

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

公益財団法人 実験動物中央研究所（川崎市川崎区殿町）組織体制（その他事業所なし）



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基 準 年 度		2019				年度
目 標 年 度		2022				年度
基 準 排 出 量	(実)	3,673		(実)		
	(調)	4,604	t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目 標 排 出 量	(実)	3,563		(実)		
	(調)	4,466	t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削 減 量	(実)	110	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内 訳	対策実施による削減量	(実)	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	110 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削 減 率	(実)	3.0	%	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		延床面積			
原 単 位 の 単 位		t-CO ₂ /m ²			
基 準 年 度 の 値		0.3168			
目 標 年 度 の 値		0.3073			
削 減 率		3.0 %			

ウ 目標設定に関する説明

現在、照明のLED化、風通しを良くしての屋外テラス周囲環境の改善、配管断熱の促進による空調機環境の改善を検討している。活動量と密接な関係を持つ数値の変更を予定している現段階では具体的な目標を掲げるのは困難であるが、上記により国が示す目標数値である年間1%の削減を達成したいと考えている。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容（別表第1から6等を参考に記載してください。）

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー管理推進会議の定例会を年3回開催し、また年1回所員向けに省エネルギー教育を実施。 ・主要設備使用状況を把握分析、結果に基づき、運用面での見直しを行う。 ・主要設備で一番のエネルギー消費する冷凍機・ボイラー・空調機等においては、日常点検・保守業社点検を実施し、適切な管理を行う。 ・外気条件変動に対し、空調の設定変更を適時行いエネルギー効率向上を目指す。 ・政府推奨冷暖房設定を採用（事務所、会議室etc） ・CO₂エネルギーシフト及びボイラー燃焼調整（空気比等）を行い適正な管理を実施する。 ・適切な消灯を継続的に実施する。 ・事務機器・実験機器は不要時電源断、低電力モードを活用をする。 ・照明のLED化（高効率化）を引き続き検討する。
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	建物側面設置 能力30KW	平成23年

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	△
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	環境負荷の少ない飼育業務・研究活動を目指し、環境への影響度を把握し見直しを行う。 ゴミの分別を徹底し、リサイクル促進・環境への負荷抑制を図る。 駐輪場を拡充し、自転車利用者の便宜を図る。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,673	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,971	K L
-------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
公益財団法人 実験動物中央研究所	川崎区殿町3丁目25番12号	3,673 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂